

まちづくり市民会議 第1小委員会議事録④

■日 時	2007年12月6日（木） 午後6時30分～午後8時30分
■場 所	太田市役所 10階 政策推進会議室
■出席者	委員6名 浦野委員長、宮越副委員長、相沢、境野、佐々木、 原澤、福島 市2名 高田、正田 ※欠席委員4名 天竺、荒井、岡部、早川

【概要】

1. 本日の会議の進め方

今回は意見用紙の提出はなかった。本日も自由な意見交換という形で皆さんに意見を述べていただきたい。

2. 意見交換

各委員がまちづくりに対する意見を自由に述べた。（内容については、以下のとおり）

●区長等の地区役員について

- ・合併により旧1市3町が一つになったにもかかわらず、未だに地区役員のしくみにバラつきがあり、地域の慣例等で現在に到っているような状況でもあるので、統一的な規約など基準を作る必要があると思う。
- ・合併後の地区役員組織をオール太田で1本化するのに相当時間がかかると思う。
- ・区長制度等について改革をしようと議論していても、実際にはあまり前進しないと思う。改善の意識は全く無いし、むしろ役割の軽減についての意識の方が高いのが現状であり、実際役員のなり手は無く、くじ引きで決めるようなありさまである。
- ・子ども育成会役員には男性が全くいない。

●コンパクトなまちづくりについて

- ・「太田市人口推移（太田市ホームページより）」（別添資料参照）をご覧ください。総数が一番突出している年代は、いわゆる団塊の世代の年齢層で、次が多いのが団塊ジュニアの世代であり、さらにその次が団塊ジュニアの子ども達の世代である。また、納税者人口推移については、今後年々減少をたどると推定され

ており、財政が厳しくなることが予想される。このようなデータから将来のまちづくりを考えていくことが重要であると思う。最近「限界集落」という言葉がよく聞かれるが、中心市街地もこの「限界集落」に近づいていると思う。行政区割等のスタンスを変える必要もあるかもしれない。また、行政区毎に団塊・団塊ジュニア・団塊ジュニアのジュニア、の人口をグラフ化すると地域アンバランスが見えてくるのではないか。5年後、10年後のまちづくりを考えるのではなくて、50年後、100年後のまちづくりを考えるべきである。

- ・ **Q)** 市では50年後、100年後のまちづくりを考えている部署はあるのか。

↓

A) 企画課策定の新生太田総合計画が10年、都市計画課策定の都市計画マスタープランが10年というスパンで考えているが、50年後、100年後のまちづくりを考えている部署はないと思われる。

- ・ 総合計画は実施する事業のことだけで、抑制すべきことは書かれていない。我慢する努力をしなければ市の財政は破綻する危険がある。費用対効果を優先的に考え、抑制すべきところは抑制していく、そういう行動をとらなければ健全財政は保持できない。広報等でも市債残高が掲載されていたが、莫大な市債が借金として残っている。
- ・ 先日、関東学園大学の公開講座に出席した。その中で、太田市の実質公債費比率についての話を聞いた。H17が14.2%、H18が14.4%という数字で前橋・高崎・桐生と比較してかなり高い数字となっている。太田病院の移転や新市民会館の建設等、今後大規模な事業がめじろ押しであり、さらに借金が増えることが懸念される。また、本市の経常収支比率はH17が90.7%、H18が92.8%という数字で年々増加傾向にあり、このことを簡単に言うと経常的経費の占める割合が高くなり、自由に使えるお金が減っているという、いわゆる財政の硬直化が起こっているということであり、財政状況は益々厳しくなっていると言える。
- ・ 計画している施設が本当に必要なものなのかどうかを、広く市民に聞く必要があり、市債等の数字も隠さないで、情報公開する必要があると思う。子どもは減り、高齢者が増え、税収も減る、という将来予測の中で、今後もこれまでと同様の公共投資を行っていったらよいのだろうか。
- ・ 最近ピンコロ運動（「ピンコロ」とは、ピンピンコロリの略で健康のまま天寿を全うするという意味）という言葉をよく耳にする。それだけ高齢化社会が顕著になってきている証拠だと思うが、各地区では子どもを含む若い人達の人数が集まらないという理由から、これまでずっと開催してきた運動会やお祭りが実施できなくなってきてしまっているという悲しい現実もある。まさに限界集落の具体例であると思う。
- ・ 太田市では、ふれあいいいききサロンを実施しているが、それだけでは本当の喜

びや生きがいというのは見出せないと思う。お年寄りが本当に楽しいと思う瞬間は、例えば買い物に行くような時であると思う。しかしながら歩道が危険であったり、近くにお店がなかったり、いろいろな状況から困難となっている。そこで、お年寄りが家にこもっているのではなくて、外へ出て買い物にも行ける環境作りが必要なのではないかと思う。

- ・コンパクトなまちづくりに必要なのは、小さな地区割りにして、人口密度を高めることであると思う。
- ・Q) 太田駅南口で朝市はできないだろうか、という市民の要望がある。

↓

A) 「くらっせ」(太田市本町)で朝市は実施している。ただ朝市をやろうと言っても、商売として成立する見込みがなければ、業者は出店をしないと思う。商売として成立させるということは、それほど簡単なことではないと思う。

- ・Q) 養護学校の生徒達を受け入れてくれるような就職先はないだろうか。

↓

A) なかなか難しいと思う。企業自体の生存競争が厳しい中で、採算性の悪くなるような採用はしないのではないだろうか。

- ・企業が海外へ移転しており、国内の工場跡地が空洞化してしまっており、さまざまな問題が出てきている。
- ・借金を作らない、無駄な投資はしない、という健全財政を維持するために、コンパクトなまちづくりの仕組みや今後進むべき方向性を、大きな流れとして示せばよいのではないか。
- ・地域コミュニティや財政の問題等は長期的なまちづくりの課題であるにもかかわらず、私達委員の任期は2年と言う限られた短い期間であり、その中で50年先、100年先のまちづくりのあり方に結論を出すのは非常に困難なことである。方向性だけ示して、今後の市民会議を継承していくことによって、最終的に具現化していくという提言のあり方でも良いのではないだろうか。
- ・共働き夫婦の問題も顕著となってきている。その影響で最近土曜スクールが開設されて、1人ぼっちになってしまう子ども達を預かる地区も出てきているということである。

●安心・安全なまちづくりについて

- ・青パトの配備について、あれだけ大規模な配備は全国的にも珍しいと聞いているので、今後は組織づくりを強化して、有効活用を図っていくべきである。
- ・先日、地元の住民センターに起震車をよんだ。消防が中心となって講演や地震体験等の実演を行ったが、とても有意義な体験であった。

3. 報告事項

- ・SNSの取組みについて、今後状況報告していきたい。

4. 今後の進め方

- ・短期、中期、長期的なものに分けて幅広い意見を提出してもらいたい。
- ・キーワードや短い文章で結構なので、多くの意見を出してもらいたい。
- ・本日の議事録については事務局でまとめ、全委員へ送付する。
- ・事務局は提出された意見用紙を取りまとめ、委員長及び副委員長に報告する。
なお、意見用紙の提出期限は12月28日（金）までとしたい。

●次回会議のお知らせ

- ・第5回第1小委員会の開催
【日時】1月10日（木） 午後6時30分～
【場所】市役所10階 政策推進会議室